

補足説明資料

数値目標 農業産出額の変更について

平成29年3月

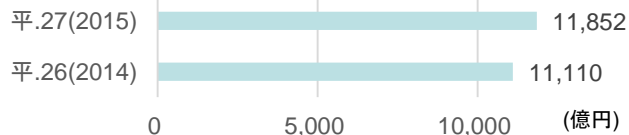
国土交通省 北海道局

数値目標 農業産出額の変更について

- ・第1回部会では、食料供給基地としての持続的発展を目指し、農業産出額を現状より増加させるというメッセージを道民や関係者が共有するため、主要品目毎の生産努力目標(第5期北海道農業農村振興推進計画)が達成された場合の農業産出額を推計し、これを数値目標(11,500億円)として提示した。
- ・しかしながら、H28.12末に公表されたH27の北海道の農業産出額は11,852億円であり、11,500億円を超える数字となった。
- ・これは、生乳の単価や肉用牛・乳用牛の価格上昇等による畜産の上昇(444億円)とともに、天候に恵まれ近年まれにみる豊作となったこと(215億円)が主な原因である。
- ・因みに、H28は、生乳単価及び生産量が対前年横ばいで推移し、肉用牛は、交雑種、乳用種で価格の低下が見られている。また、台風等の影響による産出額の減少が予想されている。
- ・なお、日本全国の今後10年の見通しでは、農業生産額の増額の見通しは陰しいとされている。
- ・こうしたこと(H27は産出額を上昇させる好要因があったが、H28は減少が予想される。また、日本全国では生産額の縮減が予想されている。)とともに、H27の農業産出額が、11,852億円となったことを踏まえ、**数値目標を12,000億円**に変更したい。

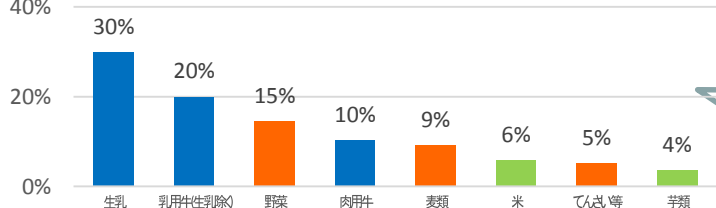
H37年目標 11,500億円→12,000億円

農業産出額



出典: 生産農業所得統計 農林水産省

H27年農業産出額 増加に対する寄与率



今後10年程度の間に農業の生産量及び実質生産額は縮減していくことが想定される。実質所得の伸びの見込みは不明ながら、人口や年齢構成を考慮した需要の減少、生産面における比較劣位状態は継続しそうであり、なかなか生産にプラスに働く要因はない。機能性を高めた農産物等、個別の品目で受容されるものはあるとしても、農業全体としては、増加、増額への見通しは陰しい。

(出典: 日本農業の現状と見通し 農林金融2016.1 農林中金総合研究所)

■ 畜産によるもの (60%)

■ 豊作によるもの (29%)

数値目標 農業産出額の変更について

H27農業産出額増加要因 対前年 742億円 6.7%増

1. 畜産の増加 444億円(寄与率 60%)

○生乳 対前年 226億円増 6.8%増

【H27の要因分析】

- ・乳価が4%アップし96円/kg
- ・生産量は、乳価の引き上げや地域における各種増産対策の実施(飼料給与方法、飼養管理技術の改善等)などの効果もあり、前年度を2%上回った。

(出典 H27 北海道農業・農村の動向 北海道)

【今後の見通し】

- ・H28乳価は96.2円/kg(0.2%増)
- ・H28生乳生産量(北海道) 3,903千トン(対前年 100.1%)、H29 3,911千トン(対前年 100.2%) (出典 需給見通し H29.1.27 (一社)Jミルク)

○乳用牛(生乳除く) 対前年 142億円増 22.5%増

【H27の要因分析】

- ・H15年春以降、肉用子牛の価格高騰で和牛を産ませる酪農家が増え乳牛の出産頭数が減少、出産を控えた初妊牛は、H28.12に前年比28.9万円高の95万円に達した。初妊牛につられ育成牛など乳牛全体が高騰している。

(出典 日本農業新聞 H29.1.14)

【今後の見通し】

- ・H28は、初妊牛価格は上昇したが廃用牛価格は下落

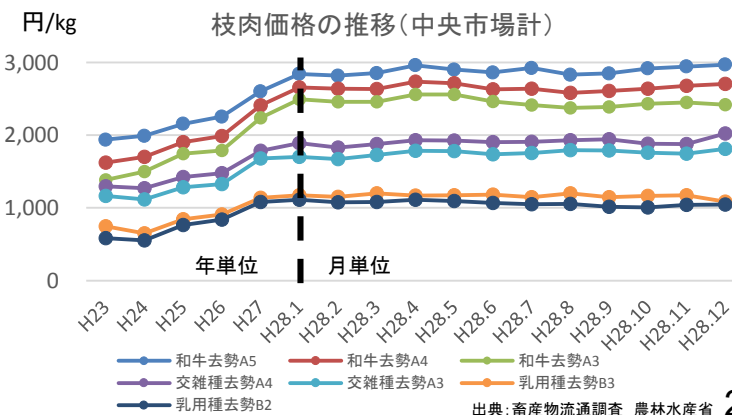
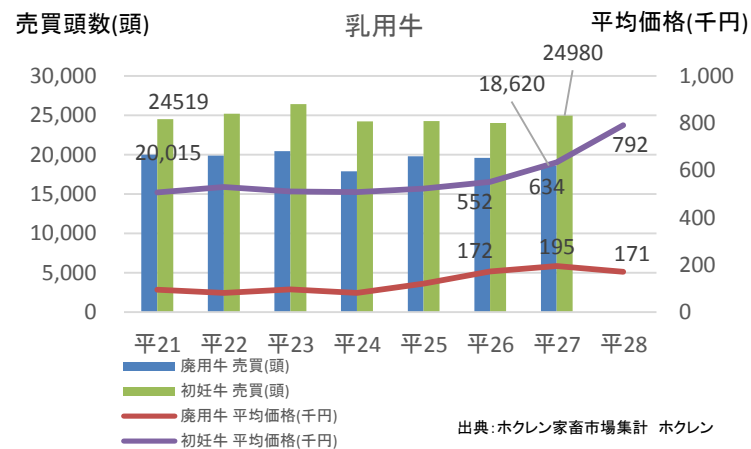
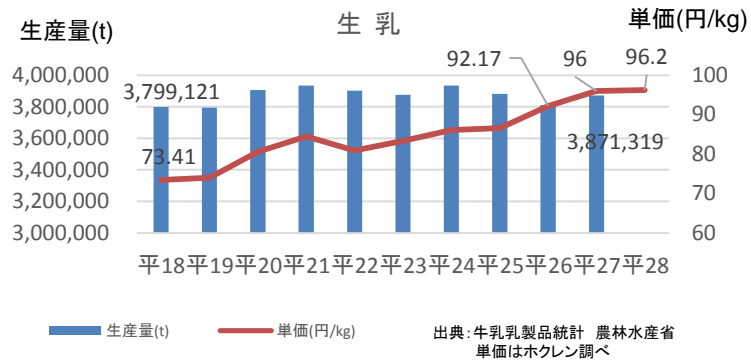
○肉用牛 対前年 76億円増 8.4%増

【H27の要因分析】

- ・22年度以降は高齢化に伴う飼養戸数の減少やH22.4に宮崎県で発生した口蹄疫の影響等により子牛の出生頭数が減少し肉用子牛の価格が上昇している。(出典 H27食料・農業・農村白書 農林水産省)

【今後の見通し】

- ・道内の肉牛飼養頭数は、28年度に前年を上回り23年度以降続いていた減少傾向が6年ぶりにストップ。枝肉価格は、和牛については前年を上回る高値水準を維持しているが、交雑種、乳用種については前年並み～やや低下傾向となっている。(出典 農家の友 2016年12月号 北海道農業改良普及協会)



数値目標 農業産出額の変更について

2. 豊作による増加 215億円(寄与率 29%)

○野菜 対前年 108億円増 5.1%増 (生産量8.1%増)

【H27の要因分析】

・天候に恵まれたことにより、生産量8.1%増となった。

○小麦(麦類) 対前年69億円 36.3%増 (生産量 33%増)

【H27の要因分析】

・4月以降の晴天、出穂期以降気温が低めに推移し、登熟期間が長く確保されたこと等から、単収が過去最高、収穫量も前年と比べ、33%増加となった。(出典 H27北海道農業・農村の動向 北海道)

○てんさい 対前年 38億円増 9.1%増(生産量 10%増)

【H27の要因分析】

・春先の天候に恵まれ、その後の生育もおおむね順調に推移し、単収は前年に比べ7.6%増加。その結果、生産量は前年に比べ10%増加し、10月以降の気温の日較差が大きかったことから、平均糖度が対前年0.2ポイント上昇し17.4%となった。

(出典 H27北海道食料・農業情勢報告 北海道農政事務所)

